




# 風水害

気象情報に注意して日頃から危険箇所を確認しましょう

## 気象情報を理解しておきましょう


・雨の強さと降り方（1時間あたりの雨量）：平成12年8月作成、平成14年1月一部改正

<p><b>[10～20mm]</b> <b>やや強い雨</b> ザーザーと降る。地面からの跳ね返りで足元がぬれる。地面一面に水たまりができる。雨の音で話が良く聞き取れない。</p>		<p><b>[20～30mm]</b> <b>強い雨</b> どしゃ降り。傘をさしていてもぬれる。寝ている人の半数くらいが雨に気がつく。側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れの心配がある。</p>	
<p><b>[30～50mm]</b> <b>激しい雨</b> バケツをひっくり返したように降る。道路が川のようになる。山崩れ・崖崩れが起きやすくなり、都市では下水管から雨水があふれる。</p>		<p><b>[50～80mm]</b> <b>非常に激しい雨</b> 滝のように降る。水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある。</p>	<p><b>[80mm以上]</b> <b>猛烈な雨</b> 息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。雨による大規模な災害の発生するおそれ強く、厳重な警戒が必要。</p>

「強い雨」や「激しい雨」以上の雨が降ると予想される時は、大雨注意報や大雨警報を発表して注意や警戒を呼びかける。

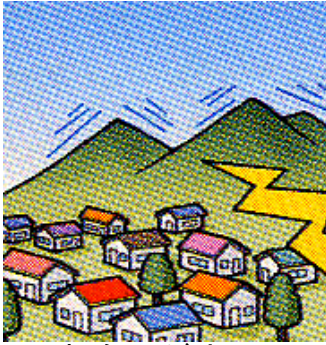
「猛烈な雨」を観測した場合、「記録的短時間大雨情報」を発表することがある。

・風の強さと吹き方（10分間の平均風速）：平成12年8月作成、平成14年1月一部改正

<p><b>[10～15m/s]</b> やや強い風 風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。取り付けの不完全な看板やトタン板が飛び始める。</p>	<p><b>[15～20m/s]</b> 強い風 風に向かって歩けない。転倒する人もでる。ビニールハウスが壊れ始める。</p>	<p><b>[20～25m/s]</b> 非常に強い風（暴風） しっかりと身体を確保しないと転倒する。鋼製シャッターが壊れ始める。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。</p>
<p><b>[25～30m/s]</b> 非常に強い風（暴風） 立ってられない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。ブロック塀が壊れ、取り付けの不完全な屋外外装品がはがれ、飛びはじめる。</p>	<p><b>[30m/s～]</b> 猛烈な風 屋根が飛ばされたり、木造住宅の全壊が始まる。</p>	

「強い風」や「非常に強い風」以上の風が吹くと予想される時は、強風注意報や暴風警報を発表して注意や警戒を呼びかける。

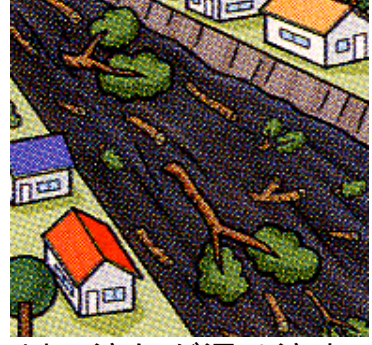
## 土砂災害の前触れについて知っておきましょう



山鳴りがする



雨が降り続けているのに川の水位が下がる



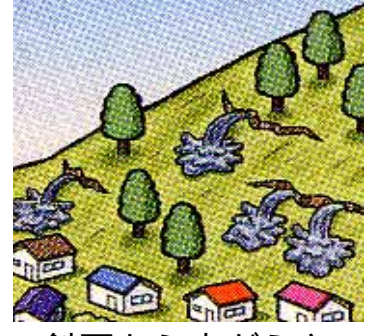
川の流れが濁り流木が混ざりはじめる



小石がパラパラ落ちてくる



地面にひび割れができる



斜面から水がふき出す

## 台風に対する備えをしておきましょう



屋根の点検

アンテナポール、支線の補強

看板等の安全点検と補強

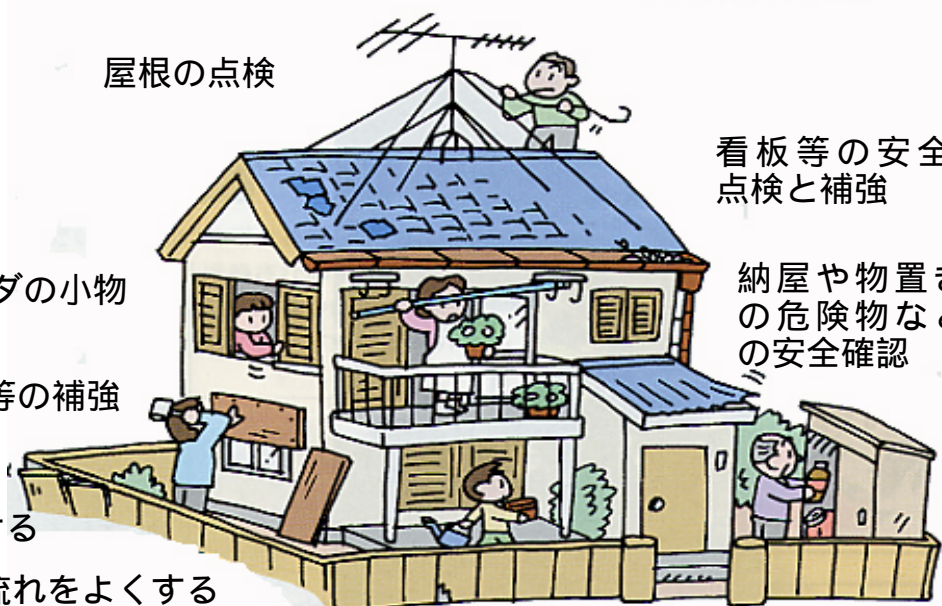
物干竿やベランダの小物を取り込む

納屋や物置きなどの危険物などの安全確認

雨戸や板塀等の補強

家周りの小物を片付ける

排水溝の流れをよくする



(気象庁・小樽土木現業所土砂災害危険箇所図パンフレットより)